

令和8年度

学校自己評価システムシート

(さいたま市立指扇小学校)

学校番号

058

学校教育目標

「やり抜く子の育成」かしこく（知） やさしく（徳） たくましく（体） あたたかく（コミュニケーション）

目指す学校像

教育目標の「やり抜く子の育成」実現のため、チーム指扇小が丸丸となって、確かな学びを実現する。①笑顔の輝く子
②支え合い高め合う教職員 ③保護者・地域との信頼関係の三つを柱とする Well-being な学校づくりを進め、笑顔の花咲く指扇コミュニティ・スクールを構築する。

重点目標

1 授業力の向上と『指扇プロジェクト』の推進により、教育指導の充実を図る。
2 安心・安全を基盤に、中長期的展望の下、教育環境の整備を進める。
3 子どもを見守る教育の推進を図るため、学校、家庭、地域との連携を深める。
4 専門性や得意分野を活かして力を発揮するプロ集団として、教職員研修の充実を図る。

達成度

達成

A

ほぼ達成

(8割以上)

達成

B

概ね達成

(6割以上)

達成

C

変化の兆し

(4割以上)

達成

D

不十分

(4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標						年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国や市の学習状況調査では、学習への関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な児童の割合が、全国や市平均を概ね上回っている。 ○行事や委員会活動等で挨拶したり、学習でプレゼンをしたりすることに意欲的に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ●全国や市の学習状況調査において、課題解決に主体的に取り組む姿勢が低い状況が続いている。 ●学習に自信を持って臨むことができていない児童が多い。	○学びの自律化・探究化に向けた授業改善と、ICTの活用	①児童が目標をもって主体的、探究的に学ぶ授業を実施し、「学びの指標」によって自らの状況を分析する。 ②DX 部を中心とした各教員が、「対話的・協働的な学び」においてICTを活用した授業を実践する。	①学校評価(児童)の「進んで問題を解いたり、考えをまとめたりしている」の肯定的な回答が昨年度を上まわったか。 ②学校評価(児童)のICT 活用に係る項目において、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。					
		○ともに学ぶ学校「確かな学力の育成」「非認知能力の向上」の実現	①SSSPの活用等により、個々の学習状況を適切に把握する。 ②全国や市の学習状況調査の結果を基にPDCA サイクルを意識した授業を実践し、授業改善を図る。	①学校評価(児童)の授業に係る項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 ②学力向上ポートフォリオを活用して、各教員が授業改善の視点、手立てを設定することができたか。					
2	〈現状〉 ○学校評価の「友達の気持ちを考え、仲よくすごす」に肯定的な回答 3.58 (R6: 3.66)と、下がってはいないものの、依然として友達関係には肯定的である。 ○学校評価の問題行動への対処に係る項目について、保護者・教職員ともに前年度を上回った。 〈課題〉 ●児童生徒一人ひとりの理解と状況把握に基づいた個別最適な支援が必要である。 ●課題を抱えた児童の保護者への適切な相談対応など、教育相談体制の充実が必要である。 ●課題を抱えた児童一人ひとりの状態に応じた学びの在り方について、更なる研究が必要である。	○個に応じたきめ細かな支援や相談等、校内体制の充実	①「心と生活のアンケート」、SSSP の活用により児童一人ひとりの状況を把握する。 ②「心のサポート 手引き」の活用と迅速な報告・連絡・相談・見届けにより、課題を抱えた児童への組織的な支援を行う。 ③三部会(生徒指導・教育相談・特別支援教育)及びケース会議等によって、迅速かつ組織的な生徒指導対応を行う。	①学校評価(児童)の「学校が楽しいか」という項目の肯定的な回答が昨年度を上まわったか。 ②学校評価(保護者、教職員)の「問題行動への対処」に係る項目の肯定的な回答が昨年度を上回ったか。					
		○誰一人取り残さない学びの場の整備	①校内教育支援センターSola るーむを中心とした多様な場の運用により、不登校傾向の児童に組織的な支援を行う。 ②ICT 活用により、児童が自分のペースで学ぶ場と時間を研究・整備する。	①学校評価(保護者、教職員)の教育相談等に係る項目の肯定的な回答が3.3点(4点満点)以上となったか。 ②Sola るーむ運営において、個に応じた具体的支援策をあげることができたか。					
3	〈現状〉 ○学校運営協議会で挙がった意見を現場に反映させることができた。 ○SSN やボランティア活動が推進されたことによって、地域の学校への参画意識は高い。 〈課題〉 ●学校と地域が更につながることができる取組の在り方が求められる。 ●保護者や地域にとって、学校での教育活動等が未だ見えづらい環境である。	○地域とともにある学校づくりを目指した、指扇ネットワークの構築	①学校運営協議会の企画を充実させるとともに、委員の参観機会を増やして学校の実態を共有し、学校と地域が目指す課題を明確にする。 ②PTA や SSN、ボランティア活動において、教職員が参加する機会を増やす。	①学校運営協議会の企画を、昨年度よりも意図的に充実させることができたか。併せて委員の参観回数を昨年度より増やすことができたか。 ②各会議において、地域と教職員との活発な意見交換が行われたか。					
		○地域とのつながりを強める機会の創出	①ホームページ等での情報発信に、多くの教職員が参加する。 ②家庭や地域が参観又は参加できる行事等の機会を増やす。	①ホームページ等で、各学年の教育活動を昨年度よりも豊富に発信できたか。 ②家庭や地域が参観又は参加できる行事等の機会が増えたか。					
4	〈現状〉 ○学校評価の事故防止に係る項目について、教職員及び保護者の肯定的回答が昨年度を上回った。 ○緊急時に、教職員一人ひとりが積極的に支援に携わろうとする雰囲気がある。 〈課題〉 ●仮設校舎での生活に馴れることで、児童・教職員共に事故防止の意識が薄れる危険性がある。 ●リフレッシュ工事に伴う教育環境の変化に対応できる管理システムを構築し、危機管理意識を高める。	○安心・安全な学校の実現に向けた教育活動の土台の強化	①「危機管理マニュアル」を参照する習慣を定着させ、教職員の安心・安全に係る危機管理意識を向上させる。 ②日常の教室整備、定期的な安全点検により事故防止の意識を高める。	①安心・安全に係る管理を、安全点検日を中心に確実に実施できたか。 ②学校評価の事故防止に係る項目について、保護者、教職員の肯定的な回答が昨年度を上回ったか。					
		○リフレッシュ工事への柔軟な対応	①リフレッシュ工事に伴う変更柔軟に対応する。 ②リフレッシュ工事期間中ならではの特別な教育活動を企画、展開する。	①リフレッシュ工事の予定や変更について、迅速に学校内外に周知することができたか。 ②リフレッシュ工事の状況及びその変更を利用して、教育活動の充実を図ることができたか。					
5	〈現状〉 ○研究委嘱『Well-being を実感する児童の育成～非認知能力の向上』を推進している。 ○自身の強みを生かした教育活動を展開している。 ○互いに相談し合える雰囲気ができている。 〈課題〉 ●全教員が、非認知能力の向上を目指した具体的な授業改善を行える状態を目指す。 ●全教員が自らのキャリアビジョンを描き、具体的な行動に移れるようになる必要がある。 ●「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」に基づいた改革推進が求められる。	○子どもたちの Well-being～子どもたちがよりよい人生を歩むために～『指扇プロジェクト』の実施	①「非認知能力」として育てたい三つの力について、教員がそれぞれ具体的な授業実践を行う。 ②他の教員の授業を見学する機会を作ることによって、各教員が自らの授業を見直し、改善するサイクルを作る。	①各学年が、「非認知能力」の三つの力をカリマネデザインマップ上に位置づけ、各教員が具体的な授業を実践できたか。 ③「心と生活のアンケート」の自尊感情の項目が1回目より向上しているか。					
		○自信とゆとりをもって指導に臨むプロとしての教員集団の育成	①「さいたま市教員等資質向上指標(キャリア navi)」を活用し、各教員が自身の課題や目標に基づいた研修を考える。 ②校内研修の更なる充実を図り、教員同士が互いに相談し合い且つ高め合える環境を整える。	①全教員が、自身の成長のための研修を行うことができたか。 ②互いに支え合い高め合う研修環境を前年度よりも整備できたか。 ③ストレスチェックの「支援の健康リスク」が前年度よりも良好な結果となっているか。					